

さくらさんたちに楽しい思い出を

コロナウイルス感染防止のため、5歳児さくらさんの名古屋市科学館プラネタリウム鑑賞に出かけることが出来ませんでした。代わりに何かプラネタリウムが楽しめないかと考え、ホールの天井をスクリーンにして星座を映し出し、子どもたちは寝転がって星座鑑賞を楽しみました。小学生向けのものなのでちょっと難しいところもありましたが、1時間近く楽しんでいました。プラネタリウム鑑賞の後は“さくらさんだけ特別”で散歩に出かけ、公園の木陰でお弁当を食べて来ました。

翌日は、星空を作りその周りに星空を見ている自分たちを描いて飾りました。

下のクラスの子がお迎えに見えたお母さんに「これ流れ星みたいだね～」といいながら眺めたり、たんぽぽの子がお母さんと一緒に立ち止まってじっと眺めて指差しをしている後ろ姿から、声はないけど2人の心の会話は伝わって来ました。

7月7日は七夕ですね。この頃は例年まだ梅雨が明けていなくて、なかなか星空を眺めることが出来ませんが、旧暦の七夕（今年は8月25日）であれば、七夕の星（夏の大三角形）を見ることが出来るかもしれませんね。たまには、お子さんと一緒に夜空の星を眺めてみるのもいいですね。

どろんこ遊びが楽し〜い ♪♪



暑くなって、水が恋しい季節となりました。園庭で泥んこ遊びをしている子どもたちの一方で、5歳児さくらの子たち数名が、ホールわきの斜面が雨で川（水が流れる細い溝）になっていてここに水を流し、流れ着いた先がちょっとした水たまりのような池になっています。ここに数日前から真ん中に、**保**が草取りをしてその辺に置いておいた草も立ててある「島」ができ始めました。その島がだんだん大きくなって、なんと“だんご虫王国”と称して、捕まえただんご虫をそこに放して遊んでいます。見ると島にはだんご虫がいっぱいごそごそと動いています。だんご虫の“ホテル”もあつたりと、なかなか面白いことを考えるものだと子どもたちの豊かな発想に感心しました。

子どもたちにとって泥んこ遊びは、いろいろなものに見立てたり、変化や感触が楽しめる遊びです。さくら組さんのように共同作業にも発展させてくれる泥の魅力、たっぷり楽しませてあげたいですね。



沖縄「慰霊の日」

6月23日は、沖縄「慰霊の日」でした。75年前、本土決戦の捨て石とされた沖縄にアメリカ軍が進行し、島全体が焼かれ、全島民の4人に1人が犠牲になりました。このことを忘れないために、この日を「慰霊の日」として定め、激戦地だった糸満市の摩文仁の丘（まぶにのおか）に記念碑「平和の礎（いしじ）」が建てられました。そこには沖縄戦で犠牲になった人たちの名前が刻まれています。今年も新たに亡くなった方々の名前が刻まれました。毎年この場で「沖縄全戦没者追悼式」が行われています。今年も、コロナ感染防止対策として、式典は規模縮小しての開催となりましたが、玉城デニー知事が平和を希求する「沖縄のこころ・チムグクル」を世界に向けて発信しました。

旧日本軍によって組織された「護郷隊」の元少年兵だった方が、その凄惨な実態や自身が苦しんできた実態を明かしました。そして約20年程前から亡くなった戦友の数だけ琉球寒緋桜植え続け、「桜を見てみんなに沖縄戦を思い出してもらおうと。戦のことを忘れられたらまた地獄がきますよって」と植樹をしているという新聞記事を読みました。その方も91歳。後世に続く「慰霊の日」を大事に続けて行って欲しいと思っています。